

## ①堀割・五反田周辺地区 防災集団移転促進事業

受賞機関 茨城県大洗町  
国土交通省 関東地方整備局 常陸河川国道事務所

**キーワード** 流域治水、治水と防災まちづくりの一体的推進、  
那珂川緊急治水対策プロジェクト

### 全建賞審査委員会の評価ポイント

令和元年東日本台風の被害を受け、具体的な移転手法が未確定の状況下で、国（河川管理者）等と連携し、地域住民と協力して、全国初となる既成市街地への差し込み型防災集団移転の具体的な移転手法を策定した事業。この取組は、地域の特性やニーズに応じた実効性の高い手法を追求し、防災対策の新たなモデルケースとなった点が評価された。

### 1. はじめに

茨城県大洗町を流れる濁沼川は、那珂川水系の支流である。これまで濁沼川沿いの大洗町堀割・五反田周辺地区では、昭和61年、平成10年、平成23年、令和元年東日本台風等、度重なる浸水被害に見舞われてきた。特に令和元年東日本台風では、約100棟の住宅が浸水する被害が発生した。

この地域では、防災対策が急務であるが、従来の堤防整備は時間やコストの問題に加え、移転に伴う地域コミュニティの衰退が懸念された。そのため、大洗町は防災集団移転促進事業（以下「防集事業」という。）の検討を開始したが、移転先の確保、事業計画策定や予算の問題等の課題に直面した。

これらの課題を解決するため、大洗町は独立行政法人都市再生機構の技術支援を受け、国（河川管理者：常陸河川国道事務所）との連携により、事前防災としては全国初となる「市街地における差し込み型による防集事業」を検討し、地域の特性を活かした防災まちづくりを進めることとした。



令和元年東日本台風浸水状況

### 2. 事業の概要

令和2年1月、流域内の関係機関により「那珂川緊急治水対策プロジェクト」が発表され、大洗町堀割・五反田周辺地区は「土地利用・住まい方の工夫の検討」とし

て位置づけられた。大洗町は、地域住民が主体的に防災まちづくりに関わることを促すため、意見交換会、個別相談や防災まちづくりニュースの発信等の活動を展開した。

その結果、地域の総意として防集事業による安全な場所への移転が決定し、令和5年12月には災害危険区域の指定が行われた。本事業の特徴は、既成市街地の空き地・空き家を移転先として活用する「差し込み型防集事業」であり、新たな住宅団地開発を不要とし、地域の空き地・空き家対策も兼ねた防災まちづくりを目指している。

### 3. 事業の成果

本事業の特筆すべき点は、従来の行政主導型ではなく、地域住民が主体となり、関係者と協力して地域の将来像を考えた点である。意見交換会やワークショップ（WS）を重ね、地域全体で防災まちづくりを議論し、地域住民の総意として防集事業の実施を決定した。

「差し込み型防集事業」を採用し、コンパクトシティ化を促進した。移転先は小学校の通学エリアを考慮して選定し、生活環境の変化を最小限に抑えることで、次世代につながるコミュニティ形成を図った。



令和6年6月27日「みんなで考える防災まちづくり」(WS)

### 4. おわりに

令和6年6月、事業計画が国土交通大臣の同意を得て、具体的な事業を開始した。今後も、大洗町・独立行政法人都市再生機構・常陸河川国道事務所の三者が連携しながら、地域の安全確保と活性化を目指した取組を継続していく必要がある。

令和6年7月には、三者が一堂に会し、事業の進捗状況を確認するとともに、今後の協力体制を再確認した。住民と行政が一体となり、持続可能な防災まちづくりを推進することで、地域の未来に向けた施策の充実が期待される。